産業観光
きりゅう紀行 68

『脱』大量生産 一点生産で繊維産業をリメイク

株式会社フクル

衰退する国内繊維産業。産業構造そのものを改革し得るビジネスモデルが、織物のまち・桐生でスタートしている。木島広氏が代表を務める㈱フクルは、マスカスタマイゼーション（一点生産）の仕組みを繊維業界に取り入れたアパレルベンチャー、IT・IoT を活用することで、生地やデザイン、丈の長さまでお客様の「こんな服が欲しい」に応える。その特徴は、ウェブサイトでカスタムオーダーを受注し、クラウド上で材料となる桐生産地の生地やパーツ、そして縫製工場まで自動連携させ効率化を図る点で、大量生産で生まれる在庫ロスを無くし、その分の価格メリットがお客様と生産者にもたらされるシステム。今年４月、そのシステムを導入した初のドレスブランド「Le Collier de Perles（ル・コリエ・デ・ペルール）」を発表。一人ひとりの好みに合った適価で高品質なドレスの提案と同時に、ブランドを通して画期的なシステムを市場に浸透させることを狙いとしている。

市内縫製工場に生まれた木島氏は、日本を代表するハイファッションブランド「コム・デ・ギャルソン」で、JUNYA WATANABE チーフパタンナーとして活躍。また、イオントップバリュでは衣料品プライベートブランドの企画に携わるなど、幅広い客層に対してアパレルを発信してきた。しかし、業界に身を置き目の当たりにしたのは、新興国から押し寄せる安価に大量生産された衣料品。そして、国内の縫製工場が次々と廃業していくという厳しい現実だった。日本の繊維産業消滅という危機感を覚えるのと同時に、国内には高齢とはいえ未だ多くの熟練労働者がおり、後世に技術を伝え産業を残すには今こそ最後のチャンスと捉え、フクルのビジネスモデルを着想。国内の質の高い技術とノウハウを IT・IoT を用いたアパレル版マスカスタマイゼーションで若い世代に技術継承を促しつつ、生産する職人に適正な賃金をもたらすことで、新興国と競合しない新たな産業構造の転換点をつくることをフクルのビジョンとした。

この未来を予感させるビジネスモデルは、新興国の低コストに対し、ドイツが行うモノづくりの付加価値を高めるコンセプト「インダストリー 4.0」に通じるとも評価され、多くのメディアからも注目を集めている。木島氏が桐生でスタートさせた試みは、国内繊維業界、さらにはモノ作りの仕組みそのものをリメイクできるのかもしれない。

●場所／桐生市天神町3－4－5　●電話／050－3718－1296
●ＨＰ／【フクル】www.fukule.co.jp　【Le Collier de Perles】www.lecollierdeperles.com